

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人格を尊重し地域の一員として生活できるよう独自の理念がある		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝申し送り時に皆で唱和し、理念を職員全体で共有しその実現に向けて努力している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念をホームの入り口に掲示している。理念の実践である日々の生活の様子を「せせらぎの里便り」として地域やご家族に配布し理解を得ている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や出勤時など挨拶をしている。回覧板を持っていったときなども話している。町内の方が庭の花や野菜を持って来てくれる事もある。非常時に(火災など)隣近所の方が駆けつけてくれる連絡網も出来ている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内清掃などの地域活動や町内会主催の温泉旅行、花火大会、敬老会などに積極的に参加している。毎年地域の学校のコンサートに招待され参加している。また地域の保育園児さん達との交流食事は一番の楽しみになっている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議に町内会長さん、役員さん、ご近所の方々に入っただき、地域のニーズに応えられるよう努力している。今年度は町内会と協力し独居宅へのふれあい会館イベントのおさそいもはじめる。併設のふれあい会館は地域の方々には開放し利用していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全体で自己評価・外部評価の意義を理解している。日頃自分達が行っているケアのふりかえりや見直し改善するきっかけにもなっている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では運営状況や行事、ホームの生活が報告されている。様々な意見や知恵も頂いている。内容は全職員に周知させてサービスの向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の研修会や講習会 地域包括センターの研修会に積極的に参加している。またSO Sやまびネットワークに参加し市と連携している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修会に管理者 職員も参加しその内容は会議で話し合い職員全体で周知している。必要と思われる人には支援している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会 虐待防止委員会を設けている。今年度も職員管理者とも研修会に参加し、全体会議で必ず話あわれ、職員のケア振り返りになっている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご本人やご家族様に丁寧に説明をし、理解していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様との日常会話の中から、意見や苦情、不満を汲み取るように心がけている。運営推進会議には利用者様にも参加していただき、意見を運営に反映させている。今年度は窓についての意見が出され、居室の窓の改善がなされた。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書、領収書の送付時に金銭出納帳のコピーや「せせらぎ便り」をいれて日常の様子を報告している。必要に応じて個別に近況報告もしている。面会時には日常の生活をお話するようにしている。	○	職員の異動などもご家族に報告するようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全職員がご家族様に気軽に声をかけていただけるような雰囲気作りを心がけている。家族会総会や運営推進会議でも意見をいただいている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に全体会議を開き、職員からの意見を反映できるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて勤務時間の調整や変更を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要最低限にし、馴染みの関係を大切にしているが、利用者様へのダメージがある時は職員が良く話を聞き対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「道グループホーム協議会」「グループホーム研究会」の勉強会、他各種団体の研修会にも積極的に参加できるよう進めている。	○	職員のレベルに応じた計画的な研修の取り組みをしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム研究会を立ち上げ、同業者との交流、勉強会を定期的に行い 旭川のネットワーク作りを担っている。他グループホームと共に質を向上させていく取り組みをしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	全体会議などで自由に意見交流が出来るような雰囲気になっている。忘年会・親睦会をし交流を深めている。シフト作成では、できる限り勤務の希望を聞いて反映させている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修への参加や資格取得を奨励している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の面談で困っている事や不安なことなど良く聞いている。入居前にはご家族と一緒に見学してもらい、安心して生活していただけるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にはご家族様と面談し、不安なこと、求めていることなど良く聞き、安心してご利用いただけるよう、努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの特徴を説明し、他のサービスの利用も含めて利用される方のニーズを考慮した相談を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの家具や、食器、寝具など、利用される前の生活環境に少しでも近づけるようご家族様と相談している。またご本人様の話を良く聞き、その方に合った支援ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食器洗い、拭き、洗濯たたみ、ご自分の洗濯、漬物作りなどの家事をしたり、畑仕事や外周りの掃除など 職員は知恵を借りることも多く、出来ない事は支援しながら生活を楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の少ないご家族や遠方のご家族には「せせらぎの里だより」や電話で近況を報告している。来所された際には日常の様子を伝え、全職員が笑顔で対応できる関係になっている。家族会主催の焼肉や、遠足、ホームでの行事を通してコミュニケーションをはかっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様に昔のことを聞いたり、日常の様子をお知らせしたり、お互いの関係がよりよくなるよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた人間関係や社会関係を崩さないよう、外出の支援や、気軽にご友人にも遊びにきていただいている。基本的に外出や外泊に制限は設けていない。希望があればホームの電話もいつでも使用してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者さん同士の関係を把握しており、それぞれの個性や人間関係に応じた配慮を行っている。(食事の席や役割など)また会話の中でお互いにわかりあえるような働きかけをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院後や退所後にも必要に応じて連絡を取っている。入院先には必要な情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は馴染みの関係につとめ、利用者さまの思いや希望 意向の把握に努めている。毎日の日誌の中に記録し、必要な場合カンファレンスを行っている。定期的にモニタリングもおこなっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にフェイスシートなどにて情報を収集している。また入居後もご本人やご家族から情報を得る事で、馴染みの暮らしを継続できるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌、介護日誌にて一日の過ごし方を、チェック表で血圧・脈・熱や水分・食事量・排泄の有無等を把握している。また、モニタリングにて入居者さまの状況をこまめに把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを開き、職員間の情報交換、意見交換を行なっている。またご本人やご家族の要望をケアプランに反映させ、入居者さま本位のものとなるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にモニタリングを行ない、ご本人、ご家族様、職員と話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の状況を毎日個別の介護日誌に記入し、申し送りやカンファレンスなどで情報を共有している。またモニタリングにも活用し介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、外出・外泊の支援をしている。随時ご家族様の宿泊も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に町内会長さんや役員の方、ご近所の方などに入っただき、地域との協力体制にある。自衛消防訓練には、地域の方々や消防の方にも協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、訪問マッサージ、訪問理美容を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネジャーが地域包括支援センターの勉強会に参加し、情報交換などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎日、法人の院長や看護師長が入居者さまの様子を見に来るため、適切に対応できている。毎週日曜日には訪問診療、毎月1回の定期受診も行っている。顔馴染みの関係なので、入居者さまも気軽に相談している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人の医師と専門医との連携や、職員による情報提供により、適切な治療を受けられている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設長が看護師であり、日常の健康管理の支援をしている。24時間連絡が取れる体制になっている。入居者さんも職員も気楽に相談できる関係にある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院と随時情報交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針は確立されており、医師も交えご家族の要望に応じ、そのあり方について職員全員が共有している。実際にターミナルケアも実施している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師、看護師と連携し、ご家族の要望を取り入れつつ、変化に備えて対応できるチーム作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	リロケーションダメージを防止、軽減できるよう、関係者間で情報交換をおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者さまの誇りを傷つけないような言葉かけや対応を行っている。居室やトイレに入る際にはノックをしたりとプライバシーにも配慮している。せせらぎの里便りの写真使用等について、ご家族様入居者さまに同意書をいただくなど、個人情報の取り扱いにも気をつけている。また全職員にも徹底している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	できる限り、ご本人の思いや希望には耳を傾け実現に向け支援している。会話の中で丁寧に接する事でご本人の思いも汲み取れるよう努力している。	○	自己決定の場が多くなるよう支援していきたい
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを尊重し、できる限り希望にそって暮らせるように支援している。買物の希望や本屋への希望、食事の時間などご本人の意向にて支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	天候や気温によりアドバイスすることはあるが、基本的にはご本人の希望を尊重している。月1回ほど訪問理美容はお願いしているが、馴染みの理容室、美容室に出かけられる方もいる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食、職員と入居者さんが一緒に食事している。好き嫌いのある方には替りのものを用意している。時々出前を取ったり、回転寿司を食べに行く事もある。食事の準備や食器洗いや茶碗拭きなどの後片付けもその人に合った力を活かしながら一緒にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	台所に入居者さん用の冷蔵庫があり、飲み物やおやつ、漬物、果物など保管し、自由に利用し楽しませている。現在タバコ・お酒の希望者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ひとり一人の排泄パターンやサインを把握し、適時トイレにお誘いするなどしている。日中と夜間の対応を変えたりもしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日を設定させていただいているが、希望、体調により、日にちや時間を選んでいただいている。入り方やお湯の温度などはご本人の好みで対応している。身体が汚れている時には、入浴日に関係なくシャワー欲などで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣を考慮し、一日の中で必要な時に休んでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとり一人の力を活かし、茶碗洗い、拭き、おしぼりたたみ、花の水遣り、畑仕事、雪かきなど能力や適性に応じて担ってもらっている。また手芸、工作、カラオケ、読書、カメラ、マージャンなど個人的な趣味も大切にしている。買物希望は都度対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日頃からお金を所持している方もいる。それ以外の方も能力に応じて、外出や買物の際にご家族からお預かりしているお金をお渡しし、ご自分で使えるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物、本屋、理美容院、金融機関、など希望があるときは支援している。また散歩希望も頻繁にあるが、職員が付き添い出かけている。希望を言えない方の気持ちも汲み取るようにし、天気の良い日は散歩や近所のお店に行くこともある。買物会などの行事もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族会でドライブに行ったり、行事で美瑛や神居コタン、旭山の満開の桜を見に行ったりと利用者さんと行きたいところを相談しながら、外出の機会をつくっている。ご家族との外泊や外出も支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方や、毎年年賀状を書いている方もいる。希望があれば、いつでもホームの電話をお貸しし、使用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪できるよう面会時間の制限は設けていない。いつも笑顔で応対し、気軽に訪問していただけるようにしている。いつ来ていただいても大歓迎です。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し2ヶ月ごとに検討している。身体拘束を原則禁止しており、どうしてもやむを得ない時には、その理由を明確にし、ご家族の同意を得るなど、厳正な規定を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上の理由から玄関に鍵をかけているが、日中は常時開放している。入居者さんは畑に行ったり、雪かき、花の水遣りに外に行ったりと自由に出入りしている。全職員が鍵をかけることの弊害を理解している。居室の鍵はご自分でかける方はいるが、職員がかかることは無い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は定時のほか必要により巡回し、安否確認を行っている。日中も職員が居室を訪問したり、食堂で会話をしながら様子などを把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤・包丁は毎晩シンク下や棚に保管。洗濯洗剤、漂白剤なども棚の中に保管している。希望があればお出して使用していただいている。またひとり一人の状態に応じて、趣味に使うハサミや裁縫道具の管理をお任せしているケースもある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	あらゆる機会を通じ全職員がひとり一人の状況を把握し、事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット・事故報告書は全職員が読み会議などで事故防止の話し合いを行っている。また行方不明・火災などに対応した緊急時マニュアルも策定している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護師の指導のもと、急変時などの初期対応を学んだが(心配蘇生法・AED)全職員ではない	○	急変時の対応の訓練を定期的に行ない全職員が対応できるようにしていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を入居者さん、職員、地域の方、家族会、消防署の協力で行っている。緊急連絡網が整備しており、近隣の方、家族会も協力していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに現状の説明をおこない、ひとり一人に起こり得るリスクについて都度お話ししている。身体状況が変わってきたときには、連絡し説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>血圧・熱・脈は毎日定時に行っている。いつもと違う様子が見られた時は速やかに看護師や医師に報告し、指示をあおいでいる。また職員間は管理日誌・介護日誌・申し送りなどで情報を共有している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>職員はひとり一人の薬の処方箋に目を通しており、理解している。服薬による症状の変化は都度医師に報告している。変更があった時は管理日誌・申し送りにより全職員が周知する。服薬の支援は職員間でチェックされている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>チェック表の活用により、排尿・排便の有無や食事・水分量の把握が出来る為、飲み物を進めたり適時のトイレ誘導をおこなっている。また医師の指示を仰ぎ便秘の解消を行うときもある。毎日ラジオ体操や軽運動をおこない、身体を動かす機会を作っている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>自主性に任せている方もいるが、能力に応じて歯磨きや義歯洗浄、うがいの介助をし、都度、口腔状態の確認もしている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>チェック表の活用により、食事量・水分量がわかり、少ない時は対応している。一人ひとり食事量が違うが、職員は把握している。栄養士の作った献立に従い、体調や好き嫌いも考慮し、きざみなどの対応もしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>インフルエンザ・肺炎球菌の予防接種の実施。包丁・まな板・ふきんなどの消毒。面会の方も含めたうがい、手洗いの徹底をしている。感染症にたいする予防・対応マニュアルがある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食中毒予防のため、毎日調理器具の消毒殺菌を行っている。栄養士が食材を用意、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	夏の間は玄関前に花を植え、近隣のかたと花について話をしたり、明るい雰囲気作りをしている。利用者さんが毎日水遣りをしてください。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節の花をご近所の方や、ご家族から頂く事も多く、また居間には入居者さんの作品が飾られており、明るい雰囲気になっている。リビングは広々としており好みの場所で過ごしている。トイレや浴室、居室はプライバシーが守られ、不快な音や光は入らない。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングにはソファや畳があり、一緒にテレビを見たり、洗濯物をたたんだり、新聞を読んだり好きな場所で思い思いに過ごしている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れた家具や馴染みのもの、大切な写真、大好きな人形・趣味の道具などを持ってきていただき、好きなように配置していただいている。仏壇を置いている方もいる。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	居室や廊下、食堂には温度計を設置している。入居者さんに合わせた温度調節を行っている。換気は24時間行われており、掃除の際にも、窓を開け換気につとめている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物全体がバリアフリーになっており、廊下、食堂、玄関には手すりを設置している。また食堂の椅子は体格に合わせて2種類の高さ(38、40センチ)を用意している。トイレは3種類の高さ(38、40、42センチ)を用意し安全に使用できるよう、手すり・ファンレストテーブルの設置もある。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所、自分の居室がわかるように目印をつけている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭や畑、花壇があり、花や野菜を植えてたのしんでいる。夏の間毎日自主的に外に水やりに出る方もいた。花壇のそばにはベンチを置き、花を眺めたり、ひなたぼっこしたりしている。冬は雪が積もると、玄関前の雪かきをしてくれている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

・ふれあい会館を併設し、地域の方に開放している。 ・非常時の緊急連絡網に町内会の方、家族会の方が参加しており、協力体制が  
できている。自衛消防訓練にも参加していただいている。 ・施設長はグループホームケア研究会を作り、他のグループホームとの交  
流、研究会を行ない、ケアの向上に努めている。